

★**県北保健所管内の感染症発生状況**（5/13～5/19 福島県感染症動向調査より）
※詳細は「福島県感染症発生動向調査報告」で検索してください。

RSウイルス感染症の流行が見られます。インフルエンザ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の小流行が見られます。百日咳 1 件報告がありました。

今月のトピックス

★「つつが虫病」にご注意ください！



ほく「ツツガムシ」です。体調は1mm以下。幼虫の時だけ哺乳動物の体液を吸います。病原体を持っているのは全体の0.1～3%だけ。気温が10℃以下では活動できないんだ。春になると活動開始だよ！

4月に、今年、県内で初めての「つつが虫病」患者の発生が県北地域医療機関から報告されました。福島県は全国有数のつつが虫病多発地域で、毎年30名前後の患者発生が報告されています。県北地域では昨年は3件の報告がありました。

つつが虫病は春～初夏、秋～初冬が、多発時期で、病原微生物（リケッチア）を保有するツツガムシ（ダニの一種）に刺されて感染します。ツツガムシは1mm以下で肉眼ではほとんど見えません。山や草むらに潜んでおり、肌や衣類に付着します。刺されて痛みやかゆみを感じません。つつが虫病はヒトからヒトへの感染はありません。

治療には適切な抗菌薬の投与が必要です。治療が遅れると命に関わります。症状が現れたら、できるだけ早く医療機関（内科、皮膚科）を受診しましょう。

「つつが虫病」の症状と治療

●潜伏期間：つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシに刺され、5～14日

●症状：**発熱、リンパ節腫脹、発疹、刺し口** など

全身倦怠感、食欲不振とともに、頭痛、悪寒（寒気）、発熱などを伴って発症する。体温は段階的に上昇し40℃にも達する。刺し口は皮膚の柔らかい部分に多い。刺し口周辺のリンパ節の腫脹が見られる。発症後3～4日後より、顔や体幹に発疹が出て、全身に広がる。重症になると肺炎や脳炎症状を来す。

●治療：有効な抗菌薬治療が適切に行われると劇的に症状の改善が見られる。

●「刺し口」の特徴

- 刺された痕は、赤い水疱→膿疱と変化し、10日目頃には「周りが赤く盛り上がった“かさぶた”」となる。
- “刺し口”は見つからない場合もある。



「刺し口」の発見は早期診断の決め手です！

ツツガムシ病の予防と早期診断・治療のために大切なこと

●山野に入る際には、肌の露出を少なくし、虫除けスプレーを適宜使用しましょう。

●屋外作業後には、入浴・着替えをし、付着したツツガムシを洗い落としましょう。

●屋外作業の5～14日後に、発熱、リンパ節の腫脹、発疹がみられた場合には、早急に医療機関を受診しましょう。受診時は、山野にはいったエピソードや“刺し口”があればそのことを主治医に伝えましょう！



<6/1～6/7は HIV 抗体検査普及週間です！>

県北保健所ではHIV抗体検査を実施しています。

- 検査日：毎週月曜日午前（第1・3月曜は夜間検査も実施）
- 申し込み方法：完全要予約（電話 024-534-4113）
- 検査時期：正しい結果を出すため、感染の機会があったから12週間後以降の検査をおすすめします。
- その他：ご希望により、梅毒検査も一緒にできます。

発行日 令和元年5月22日

発行元 福島県県北保健所
医療薬事課

住所 〒960-8012
福島市御山町8-30

電話 024-534-4113

ホームページ

検索キーワード

福島県県北保健所